

(27) ごぼう

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬 剤 防 除		
		防除時期	RACコード	薬 剤
1 黒斑病 <i>Ascochyta phaseolorum</i>	1. 連作を避ける。 2. 窒素肥料の過剰施肥を避け、適正施肥をする。	発病初期	M4	オーソサイド水和剤 80
2 うどんこ病 <i>Sphaerotheca fusca</i>	1. 多肥栽培を避ける。	発病初期	3 M5	トリフミン水和剤 ダコニール 1000
3 黒斑細菌病 <i>Xanthomonas campestris</i> pv. <i>nigromaculans</i>	1. 連作を避ける。 2. 窒素過多や多肥栽培を避ける。 3. 密植栽培は避ける。 4. 被害葉は除去し、処分する。 5. 病葉は圃場外に持ち出し、処分する。	発病初期	M1 24・M1 24・M1	Z ボ ル ドー (混)カスミンボルドー (混)カップーシン水和剤
4 黒あざ病 <i>Rhizoctonia solani</i>	1. 土壌湿度が高くなるないように、排水に努める。 〈薬剤使用の特記事項〉 1. ガスタード微粒剤、バスアミド微粒剤は、Ⅲ-14. 土壌病害虫の防除の項参照。	土 壌 消 毒	- -	ガ ス ター ド 微 粒 剤 バ ス ア ミ ド 微 粒 剤
		播 種 前	14	リゾレックス粉剤
		播 種 時	3	モンガリット粒剤
5 菌核病 <i>Sclerotinia sclerotiorum</i>	1. 連作を避ける。 2. 発病株は早期に発見し、菌核ができる前に抜き取って処分する。 3. 排水を良好にし、過湿を避ける。 4. 密植したり、過繁茂にならないようにする。 5. 窒素過多にしない。 6. 夏期に湛水可能な圃地は、高温時に20日間以上湛水すると、菌核が死滅するので有効である。	発病初期	1 2	トッブジンM粉剤 DL ロブラール水和剤
6 アブラムシ類	1. 圃場及び周辺の雑草は防除する。	播 種 時	4A	アドマイヤー 1 粒剤
		発 生 期 (7~10日おき に2~3回)	1B 1B 3A 3A 4A 4A 4C 29	オルトラン水和剤 オルトラン粒剤 アデイオン乳剤 アグロスリン乳剤 アドマイヤーフロアブル アドマイヤー 1 粒剤 トランスフォームフロアブル ウララ D F
7 ネキリムシ類	1. 被害株周辺を軽く掘り、幼虫を見つけしだい捕殺する。	播 種 時	3A	フォー ス 粒 剤
		播種時~ 生育初期	1B 1B 3A	ネキリエース K トクチオン細粒剤 F ガードベイト A
8 ゾウムシ類	1. 堀残しのごぼうから発芽した新葉は、早めに除去する。 2. 間引き、追肥、土寄せなどの農作業時に成虫を発見し、捕殺する。 3. 連作圃場は被害が多発するので、イネ科作物などとの輪作を行う。 〈薬剤使用の特記事項〉 1. トクチオン細粒剤Fはヒョウタンゾウムシ類に登録がある。	発 生 期	1B 15	トクチオン細粒剤 F ノーモルト乳剤

農薬の使用方法や注意事項はラベルで確認する

ごぼう

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬 剤 防 除		
		防除時期	RACコード	薬 剤
9 センチュウ類	1. 被害株の間引きを行う。 2. 輪作を行う。 〈薬剤使用の特記事項〉 1. キルパー、クロールピクリン、ドロクロー、クロルピクリン錠剤は、Ⅲ-14. 土壌病害虫の防除の項参照。 2. キルパーはネグサレセンチュウにのみ登録がある。 3. ネマトリンエース粒剤はネグサレセンチュウとネコブセンチュウに登録がある。	土 壌 消 毒	8F 8B 8B 8B	キ ル パ ー ク ロ ー ル ピ ク リ ン ド ロ ク ロ ー ル ク ロ ル ピ ク リ ン 錠 剤
		播 種 前	1B	ネ マ ト リ ン エ ー ス 粒 剤